

憲法ってなんだろう？ 9条はなぜ作られたの？ 芸術や言論表現活動に、私たちの暮らしに、それはどう関わるの？
～藝大生と市民がともに学び考えるための「連続講座」です～

芸術と憲法を考える連続講座

2020年 藝大生も一般市民も、どなたでもご参加いただけます。

入場無料

申し込み不要

第25回

1/10 (金) 18:30

憲法と文化政策



憲法25条に規定される「生存権」は、9条と並んで、制定当時、世界最先端の条項でした。この講座では、生存権の基本権と、国民が文化的に暮らす権利を出発点として、社会における芸術の役割や、「文化による社会包摂」という概念を、地方自治体の実例を交えながら考えていきたいと思います。

お話し 平田 オリザ (ひらた・おりざ)

劇作家、演出家。劇団青年団主宰、こまばアゴラ劇場芸術監督。大阪大学COデザインセンター特任教授、東京藝術大学特任教授。2021年兵庫県豊岡市に開学構想中の兵庫県立専門職大学の学長候補者。1995年『東京ノート』で岸田国土戯曲賞受賞。著書に『わかりあえないことから』『新しい広場を作るー市民芸術概論綱要ー』『演劇入門』など。



▲青年団「東京ノート」(作・演出 平田オリザ、2010年)
Photo by Tsukasa Aoki

第26回

2/18 (火)

詩人・尹東柱(ユン・ドンジュ)

—その時代と生涯と詩 2月16日に獄死した詩人を偲んで

第1部/15:30 第2部/18:30

第2部 18:30~21:00

日本の敗戦の半年前、1945年2月16日未明、27歳にして福岡刑務所で獄死した尹東柱。彼を死に追いやったのは治安維持法でした。彼の生涯を、日本による朝鮮植民地支配の時代の中でたどってみます。また珠玉のようないくつかの詩を、原語と日本語で味わってみたいと思います。そこから今の時代に呼びかけなくてはならない響きに触れることができたいと思います。



お話し 井田 泉 (いだ・いずみ)

1950年、滋賀生まれ。大阪外大朝鮮語学科、同志社大学院神学研究科、聖公会神学院に学ぶ。立教大文学部助手、聖公会神学院専任教員。日本聖公会の戦争責任問題に取り組む。京都市内の3教会を経て、現在、日本聖公会奈良基督教会牧師、親愛幼稚園園長。編著書は『日韓キリスト教関係史資料II』(新教出版社)、『これが道だ、これに歩めーイザヤ書による説教』(かんよう出版)等。

第1部 15:30~17:30

*第1部と第2部の間に1時間の休憩あり

映画《空と風と星の詩人～尹東柱の生涯～》美しい言葉と映像で、詩人の生涯を綴る感動作。カン・ハヌル主演、イ・ジュニク監督、2016年／韓国。



©2016 MEGABOX PLUS M&L UZ Y SONIDOS. ALL RIGHTS RESERVED

第27回

3/27 (金) 18:30

増補新版 歌とお話でつづる 組曲『日本国憲法』

作曲家の故・林光の企画で、吉川和夫、萩京子も共同作曲として参加したカンタータ『組曲日本国憲法』(1983年)を、当時、藝大入学前の浪人生だった寺嶋陸也は、俳優座の客席で聴いている。あれから憲法をめぐる状況は一変した。

今回、「緋国民楽派」としてともに活動する吉川、萩、寺嶋3人の協力で、増補新版・組曲『日本国憲法』が私たちの講座に登場する。面白くてためになる伊藤千尋さんのお話を散りばめ、世界の民主主義の歴史のなかに日本国憲法を位置づける、新しい組曲が誕生する。

*3月の回のみ、当日17:30より会場教室前にて入場整理券配布予定(先着300名)。ホームページ等で最新情報をご確認ください!



▲1983年に初演された組曲から、林光が担当した『日本国憲法-前文』の自筆譜

演奏 芸術と憲法を考えるアンサンブル 9

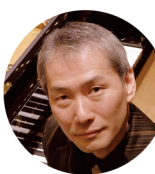


作曲と演奏

萩 京子 (はぎ・きょうこ)

1956年生まれ。東京藝大作曲科卒。

オペラシアターこんにゃく座代表、音楽監督。オペラ作品に『シグナルとシグナレス』『金色夜叉』『口はロボットの口』など。



作曲と演奏

寺嶋 陸也 (てらしま・りくや)

1964年生まれ。東京藝大作曲科卒、同大学

院修了。オペラや室内楽曲、合唱曲、邦楽器のための曲など、様々なジャンルに作品があり、ピアニストや指揮者としても活動する。



お話し

伊藤 千尋 (いとう・ちひろ)

1949年生まれ。東大法学部卒。74年朝日新聞入

社。中南米、欧米などの特派員をへて、現在はフリーの国際ジャーナリスト、「九条の会」世話人。近著に『9条を活かす日本』『世界を変えた勇氣』。



作曲

吉川 和夫 (きかわ・かずお)

1954年生まれ。東京藝大大学院修了。作曲

家、宮城教育大学教授。1996年放送文化基金賞受賞。近作に、長田弘の詩による2つの無伴奏女声合唱曲など。

主催/東京藝術大学 音楽学部 楽理科 共催/自由と平和のための東京藝術大学有志の会 後援/日本ペンクラブ

会場/東京藝術大学 上野キャンパス 音楽学部5号館1階 109教室 (毎回開始時刻の30分前に開場)

※満席の場合は補助席を若干数をご用意いたしますが、やむなくご入場いただけなくなる場合がございます。どうぞご容赦ください。



(((《芸術と憲法を考える連続講座》のあゆみ)))

●2017年

●第1回 12/18(月)《どうなるの?表現の自由と憲法》中島京子(作家)、田崎基(神奈川新聞記者)

●2018年

●第2回 1/25(木)《日本国憲法は希望—芸術家も法律家もいっしょに考えよう》白神優理子(弁護士)

●第3回 2/15(木)《美術館と表現の自由—戦後・現代美術からの問い》武居利史(府中市美術館学芸員)「美術館における『表現の自由』—新海覚雄展の例にもふれて」/成相肇(東京ステーションギャラリー学芸員)「パロディと杓子定規」

●第4回 3/19(月)《戦争と地続きの国に暮らして—世界を駆ける演奏家が語る戦争と平和—》中村功(打楽器奏者)

●第5回 4/25(水)《安倍改憲と表現の自由》山田健太(専修大学教授・言論法、日本ペンクラブ専務理事)

●第6回 5/19(土)《知ってますか?作文・美術教育が罪とされた時代》佐竹直子(北海道新聞記者)/同時上映 短編ドキュメンタリー《伝える、伝わる—生活図画事件の証言》(制作:旭川工業高校 KBS 旭工放送局)

●第7回 6/22(金)《へいわってすてきだね—沖縄のゆうき君とぼくの絵本作り—》長谷川義史(絵本作家)

●第8回 7/24(火)《「ナチスの手口」と芸術》石田勇治(東京大学教授)

●第9回 8/20(月)《イメージする。表現する。行動する。—核兵器のない世界へ—》川崎哲(ピースポート共同代表)「ぼくたちは世界をどう動かすか」/岡村幸宣(原爆の図 丸木美術館学芸員)「核の脅威と対峙する芸術」

●第10回 10/29(月)《原発なき地球へ 戦争なき世界へ—出て、見えた日本 来て、知った日本—》金子飛鳥(ヴァイオリニスト・作曲家)、ナターシャ・グジー(歌手・バンドウーラ奏者)



▲川崎哲さんと岡村幸宣さん (第9回)



▲賢治の童話を朗読する大塚航二朗さん(第11回)

●第11回 11/19(月)《生誕100年 ちひろの絵本と憲法のこころ》松本猛(横浜美術大学客員教授、ちひろ美術館常任顧問)、歌 岡田愛(東京藝大大学院音楽専攻)、ピアノ 善養寺彩代(東京藝大大学院ソルフェージュ専攻)、朗読 大塚航二朗(無名塾)

●第12回 12/6(木)特定秘密保護法施行から5年《山と語学を愛した大学生は、なぜ逮捕され命を奪われねばならなかったのか?》第1部 映画『レーン・宮沢事件 もうひとつの12月8日』/第2部「秘密保護法・戦争法の時代に、事件から何を学ぶか」山野井孝有(元・毎日新聞印刷部長、「北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を語る会」元・代表)

●2019年

●第13回 1/11(金)《憲法を活かす世界の人々—社会変革の先頭に立つ芸術—》伊藤千尋(国際問題ジャーナリスト)

●第14回 2/16(土)《表現の自由をもとめて—昭和俳句弾圧事件と九条俳句訴訟—》マブソン青眼(俳人・「檻の俳句館」館主)、佐藤一子(東京大学名誉教授・「九条俳句」市民応援団世話人)、九条俳句作者女性

●第15回 3/19(火)《よくわかる憲法のはなし—9条、沖縄、学費値上げ—》青井未帆(学習院大学教授・憲法学)

●第16回 4/25(木)《歴史の真実を見極めよう—今の動きを見誤らないために—》小島美子(国立歴史民俗博物館名誉教授・日本音楽史)

●第17回 5/14(火)《「表現の自由」が奪われた時代を生きて—生活図画事件の歴史とぼくたちの生活と—》菱谷良一(事件被害者・97歳)、高橋健太郎(写真家)、川嶋均(東京藝大講師・ドイツ語)



▲9条俳句作者に花束贈呈 (第14回)



▲永井愛さんと望月衣塑子さん (第18回)

●第18回 6/12(水)《女・憲法・演劇—この国の「ザ・空気」に私たちは声をあげる—》永井愛(劇作家・演出家・二兎社主宰)、望月衣塑子(東京新聞社会部記者)

●第19回 7/24(水)《ヒロシマを伝える意味—被爆体験は世界のなにを变えるのか—》永田浩三(武蔵大学教授)

●第20回 8/28(水)《「花ばあば」日・中・韓平和絵本12人の画家たちの微笑みと涙》浜田桂子(絵本作家)、田島征三(絵本作家)、朗読 金子あい(俳優)

●第21回 10/30(水)特別シンポジウム《「表現の自由展—その後」中止事件を考える》大浦信行(出品作家、アーティスト)、嶋田美子(出品作家、アーティスト)、岡本有佳(不自由展実行委員、編集者)、川島素晴(作曲家)、山田健太(日本ペンクラブ常任理事)、権祥海(東京藝大大学院国際芸術創造研究科博士課程)、武居利史(府中市美術館学芸員)

●第22回 11/7(木)《研究の現場から—藝大教員とともに「芸術」と「社会」の関係を考える—》福中冬子(音楽研究科音楽学)、毛利嘉孝(国際芸術創造研究科)

●第23回 11/27(水)《やさしい視線—静かな怒り—詩人・四國五郎が伝えたかったこと》四國光(四國五郎長男)

●第24回 12/11(水)《私たちは歌で戦争を支えた—民衆の自己表現、戦時歌謡—》池田浩士(京都大学名誉教授)



▲金子飛鳥さんとナターシャ・グジーさん (第10回)



▲生活図画事件の菱谷良一さんはこの時97歳 (第17回)



▲不自由展シンポで発言する留学生 権祥海さん (第21回)

＜カンパご支援のお願い＞

当会の活動とこの連続講座は、皆さまのカンパにより支えられています。ご芳志を以下口座までどうぞよろしくお願ひいたします。

ゆうちょ銀行振替口座 00130-1-514131

口座名称: 自由と平和のための東京藝術大学有志の会

※他行から振り込む場合/店番: 〇一九 (ゼロイチキュー) 店

預金種目: 当座、口座番号: 0514131

自由と平和のための東京藝術大学有志の会

HP <https://www.peace-geidai.com>

✉ kenpou.geidai@gmail.com (川嶋)



JR 上野駅 (公園口)、東京メトロ千代田線根津駅 (1番出口) より徒歩 10分
京成上野駅 (正面口)、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅 (7番出口) より徒歩 15分